

素材・化学系官民ファンドのユニバーサルマテリアルズインキュベーター（UMI）は、出資者の化学企業とライフサイエンス系ベンチャーとの交流会を21日に開催した。2016年にファンドが立ち上がったUMIはベンチャーなど計11社に出資してきた。今回の交流会は化学メーカーの関心が高いライフサイエンスを初めてテーマに掲げた。

基調講演では米スタンフォード大学の医療機器分野の起業家養成講座で教鞭をとる池野文昭氏が登壇した。池野氏は「日本、米国とも（医療系）

UMI ライフサイエンス交流会

スタンフォード大 池野氏が講演

大企業の研究開発は失敗を許されない。だから、大きな成長を見込みにくいのが着実に成長するインクリメンタルな技術・市場に向かわざるを得ない。一方でハイリスク、ハイリターンフルス

成長につながっていると指摘し、「資金力に劣る日本は研究開発を自前で手がけなければならぬ」と述べた。そのなかで大ヒット商品を生むには「医療現場でさえも気がついていないニーズを見つけ、若者は不得手。成功ベ

VBの成功要素は「人」

若者・よそ者・馬鹿者求めよ

カイ市場はベンチャーが狙う傾向にある」と指摘した。

「有るベンチャーを大企業が巨額を投じて買収するエコシステムが確立されている」

「成功要素は「金、技術とビジネスマン、医療従事者が米国の医療企業の高



東京医科歯科大の由井伸彦教授は線状高分子と環状分子からなる超分子「ポリロタキサン」の医薬応用を紹介した。

成功のイメージしなくてはならない。まずはスタートし、失敗を重ねながら前に進むことが重要」と話した。

ベンチャーでは機能性色素を用いた診断薬を開発する五稜化薬（北海道札幌市）やひも状の「細胞ファイバ」を開発するセルファイバ（東京都文京区）など9社が開発技術・製品を紹介した。ペプチド医薬品

原薬を安価に製造できる技術を持つJITSUBO（神奈川県横浜市）は「開発段階や産業ステージでの量産に向けて連携を深めたい」と話し、ベンチャーは大手企業との協業を呼びかけた。

16年最初にファンドが立ち上がったUMIはこれまで出資者に約250の投資案件を紹介してきたという。今回の交流会には三菱ケミカルや積水化学工業、日本触媒などの出資企業9社のほか、製薬メーカーや診断薬メーカー、食品会社など幅広い分野の企業が参加、ライフサイエンス分野への関心の高さをうかがわせた。